

## 卒業式の「学校長式辞」(後編)です。

前号(第318号)に続き、卒業式の「学校長式辞」(全文)の後編をお届けします。

### ◆卒業式での「学校長式辞」—後編—◆ 「テオなくしてゴッホなし」

- ゴッホは、よく「**孤高の天才**」と称されます。しかし、孤独であった訳ではありません。絵がほとんど売れず、貧困で絵の具も買えなかった彼を最後まで支援してくれた人がいました。それは、4つ年下の**弟テオ**です。ゴッホの一番の理解者であったテオは、定期的に仕送りを行い、**手紙**を通して励まし、物心両面で兄を支え続けました。「**テオなくしてゴッホなし**」。後生、伝説的な画家としてその名を世界にとどかすことになるゴッホは、最高の支援者である弟テオがいたからこそ誕生したと言えるのです。
- 私がこの話を最初に知ったのは、小学4年生の時に、ゴッホの**伝記**を読んだ時でした。今、私はこの二人の間に「**友情**」を感じています。個性的で才能豊かな友を、心から支える友達に見るのです。
- 本校を卒業する皆さんに贈る、1つ目のキーワードは、「**友情**」です。皆さんは、この並木中等の学舎で、6年間を過ごしました。この学舎で得た「友情」を**一生の宝物**にして欲しいと思います。
- 話は変わりますが、今、世の中は、**AI(人工知能)の普及**により、大きな変化の時代を迎えています。この変化を明治維新以来の変化という人もいますし、第1次産業革命以来の変化という人もいます。このような時代にあって、大切なものは何か。私は「**アート**」だと考えています。
- 私は2015年から「アクティブ・ラーニング」について研究をしていますが、その過程で、AIの発達する時代を生きるには「**右脳**」を鍛えることが大切だと考えるようになりました。これまでの、知識重視の勉強では「**左脳**」を鍛えてきました。「**左脳**」は書く・話す・計算するといった能力を司っています。これからは「**左脳**」だけでなく、「芸術の脳」「イメージの脳」とも呼ばれる「**右脳**」を鍛えて、**感性豊かでクリエイティブ**であることが大切な時代になるでしょう。
- そこで、私は、今年から**AAL**を全国に発信することにしました。AALとは「**アート・アクティブ・ラーニング**」です。これからの教育では、あらゆる場面で「アート」の感覚を取り入れ、「**感性**」を磨くことが大切だと考えています。AALは、私の**オリジナル**です。ゴッホと同様に、オリジナルであることはとても重要なことなのです。
- 皆さんに贈る2つ目のキーワードは「**アート**」です。美しいものを観て美しいと感じられる感性、素晴らしいものを観て感動できる感性を養ってください。例えば美術館は、それをかなえてくれる空間です。
- 皆さんは、この並木中等の空間で素晴らしい経験をしたと思います。本当に6年間、よく頑張りました。私から皆さんへのはなむけのキーワードは「**友情**」と「**アート**」です。これからの人生を、どうぞ**幸せ**に歩いていってください。私は、みなさんの**未来**に、大いに期待しています。
- 最後になりましたが、ご来賓及び保護者の皆様のご健勝とご多幸、並びに卒業生の皆さんのご活躍を心からお祈りして、式辞といたします。

平成30年3月1日 茨城県立並木中等教育学校 校長 中島博司

